

編	集	後	記
---	---	---	---

今年最後の号をお届けする。医学書院の側の事情でこの春に定期発行が遅れたのを取り戻すべく、一年中に2回の合併号となって申し訳ないが、「老人のリハビリテーション」の特集は本来2号にわたって掲載の予定のものであったので、かえって読者には便利になったかもしれない。老人問題がますます重要さを増していることは巻頭の森先生の御指摘の通りであり、歴史的にみてリハビリテーションの対象の幅を広げる大きな契機となったこともいわれる通りであろう。

福井先生の脳卒中における問題点と土肥先生の心肺機能の問題点は、リハビリテーション医学の見地からも、老年医学の研究としても優れた総括であり、実際に老人患者に接する上で大きな力となるものと思う。大畑・藤田両先生の骨代謝、猪狩・星両先生の変形性関節症の発生機序はいずれも基礎的な面で必須の知識であり、長谷川・天本両先生の痴呆、長嶋先生の心理的特性は精神・心理面での重要な問題をよく照らし出して下さっており、田中先生の老人福祉のあり方についての提示とあわせ、価値高いものであろう。

今号では久しぶりの総説として、明石先生の「下腿捻転症」を掲載できた。新たな学問領域の確立と発展のためにはよき総説が不可欠なのだが、リハビリテーションの領域ではその点がまだ弱体なことは痛感し自戒しているところでもある。明石先生の労を多としたいし、今後これに続く総説の投稿をぜひ広く期待したい。今田先生にはルポルタージュと調査の2つをいただいたが、前者は貴重な実際の知識であり、後者は学会で注目を浴びた興味ある調査である。その他も多数の投稿、講座等で読みごたえのある号になったと喜んでいる。

インフレ、不況の冷い風が障害者を（一般国民をも）直撃している上に金権政治批判で大揺れに揺れはじめた政局である。このような時こそ森先生のいわれるようなリハビリテーションの「初心」を忘れずに進むことが大事なのであろう。

（上田 敏）

編集顧問

天 児 民 和	砂 原 茂 一
大 島 良 雄	津 山 直 一
小 池 文 英	水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙	萩 島 秀 男
上 田 敏	土 屋 弘 吉
大 井 淑 雄	横 山 巖
大 川 嗣 雄	

編集同人

赤 津 隆	橋 倉 一 裕
青 山 孝	平 方 義 信
今 田 拓	三 島 博 信
今 村 哲 夫	山 内 裕 雄
江 口 寿 栄 夫	渡 辺 英 夫
小 野 啓 郎	飯 田 卯 之 吉
河 邨 文 一 郎	遠 藤 千 恵 子
金 久 卓 也	小 川 孟
兼 松 英 夫	加 藤 一 郎
五 味 重 春	小 島 蓉 子
沢 村 誠 志	笹 沼 澄 子
杉 山 尚	鈴 木 明 子
中 村 裕	高 田 玲 子
野 島 元 雄	陳 慧 玉
間 得 之	野 本 卓
長 谷 川 恒 雄	

（以上五十音順、敬称略）

（担当：細田，田村，鹿島）